



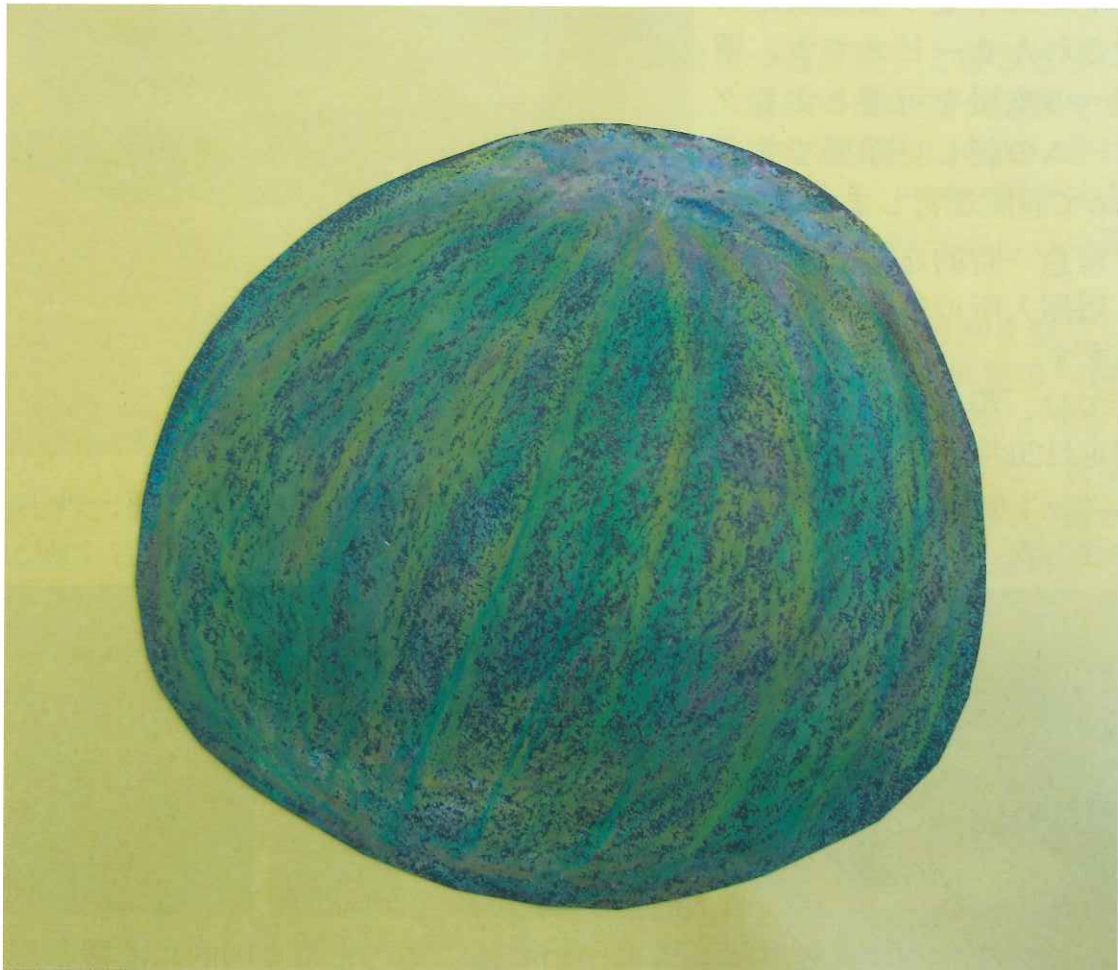
社会福祉法人

# 蒼溪通信

第11号

2019年  
10月1日

ゆめ ひら  
～未来を拓く社会参加を～



題名：「かぼちゃ」 作者：北田

長い梅雨が明け、また暑い夏がやってきました。暑い夏を通り過ぎると山々の木々が赤く染まり、里は実りの秋を迎えます。

そんな季節の移り変わりを感じながら、季節ごとの旬の食べ物を食し、またおいしいお酒を飲みながら色々な話をする。私は、山梨に住んでいてとても幸せに思う瞬間です。誰もがこのような幸せな瞬間、そして充実感をもって楽しく生活する権利があり、私たちはこの権利を守るために生活支援を通してサポートをする仕事をしています。

そのような思いや喜びにつなげる支援、理想を語るのではなく現実に少しずつ近づけるようあきらめずに同志と一緒に仕事をしたいと思っています。

相談支援センターカマラド センター長 鴨作光昭

## 日中サービス支援型グループホーム 「ボヌール」開所に向けて

蒼溪会では令和2年度4月からの「日中サービス支援型グループホーム」開所に向けて、準備をすすめています。

日中サービス支援型グループホームは、平成30年度の報酬改定により新設されたサービスです。重度障害者への支援を可能とするグループホームの新しい類型です。山梨で初めて設置運営します。

また、緊急一時的な宿泊の場を提供する短期入所の併設も必置となっています。

蒼溪会では、現在、グループホーム入居定員20名。短期入所定員4名。1ユニット10名ずつで2ユニットのグループホームの準備中。「ボヌール」という名称となりました。



ボヌール入居等の  
問い合わせ先

0551-22-3273  
(あゆみの家)

日中サービス支援型グループホームについては、まだまだ全国的に設置状況が低い現状。そんな中、千葉県千葉市にある「社会福祉法人りべるたす」に視察へ行ってきました。りべるたすはALS等の重度の障害を持つ方を主に支援している法人です。千葉県船橋市の「グループホーム はれ」で、日中サービス型支援グループホームを導入した経験があるとのことで、多くのことを学ばせて頂きました。

「日中サービス支援型グループホーム ボヌール」は、精神科病院に入院中で地域のサポートがもっと手厚ければ退院できるのに・・・という方、地域生活をしている障害の方が、高齢化等で手厚いサポートが必要になってきている場合などに、ぜひ利用して頂きたいと考えております。

「地域」が障害の方を支えることができる力を、もっともっつけていくことが、大切であると私たちは日々想いながら実践をしています。入居等のお問い合わせも、随時受け付けております。よろしくお願い申し上げます。

# 農福連携事業

## ケールで新しく2つの農福連携事業が始まりました。

農福連携の目的は障害者の経済的自立という福祉の課題と、高齢化・後継者不足という農業の課題を掛け合わせて解決を試みる事です。蒼溪会では初の取り組みになります。

### 1つ目はワイン用のブドウ棚での作業です。

サントリー豊富圃場でぶどう関連栽培業務の委託を受けて、4月から8月末までの4か月間、3ヘクタールの広大な面積のぶどう畑で除草作業に取り組んでいます。暑さの厳しい炎天下、伸びている雑草を刈り取り、圃場外に運び出します。暑くて大変だけど自然の中で作業するのは楽しくやりがいがあり、積極的に参加してくれるメンバーがいます。取り組んでいるメンバーは工賃が上がったことで、以前から欲しかった時計を購入しました！



### 2つ目はエゴマ栽培です。

南アルプス市有野地域は陽当たりと風通しが良い土地です、エゴマを栽培するには向いているのではないかと考え、二反の畑を借りました。梅の木の伐根作業から畑作りが始まり、収穫したエゴマを搾油してエゴマ油の商品化を目指します！安心安全な商品を作る為、現在無農薬・無肥料での栽培にチャレンジ中です！

7月18～23日の4日間で6000株のエゴマを定植しました！定植後は植えたエゴマの成長が妨げられないように株周りを除草していきます。メンバーとスタッフで雑草かエゴマか間違えないよう確認しながら作業をしました。注意していても、何本かは間違えて抜いてしまいました（苦笑）。

順調に生育が進めば10月の下旬から11月の中旬に収穫を予定していて、収穫後も脱穀、乾燥、洗浄、搾油と作業が盛りだくさんです。これからも美味しい油が出来るようにエゴマを大切に育てていきます。



### 追伸

エゴマ油が商品化したら、理事長が全国で行う講演会后に販売する予定です！どうぞ、販売している理事長を見かけたら買ってあげてください。

# ケールスタッフの井戸端会議

4月の異動でケールに配属されたスタッフによる井戸端会議です。  
今のケールをざくばらんに語ってもらいました。

みなさんのチャレンジを  
ケールは応援します！



**清水** ケールに配属されて4か月経った、皆さんの感想はどうですか？

**齊藤** 忙しいですね。私は施設外就労を担当していますが、メンバーさんと一緒に稼働している工場に入って清掃作業を行っています。施設外のプレッシャーを感じながらも、工場の人達から「よくやってくれている」との声を励みに頑張っています。

**横田** 主に外での農作業を担当しているのですが、今年の夏の暑さは厳しくて除草作業が大変ですね。作業開始時間を早めたり、夕方に作業したり、熱中症対策をしています。成長の早い雑草や暑さと格闘する毎日です。

**森元** 室内で行うお土産品の製造はメンバーの中から選ばれたリーダーさん達が主体的に活動していて、製品目の変更や在庫管理・欠品への対応など、一般企業のようにテキパキと仕事をしていることに驚きました。集中して作業をしているメンバーが実力を発揮している姿を見せてあげたいくらいです。

**清水** B型の施設としては、次のステップに進むメンバーへの支援も充実させていきたいところだね。ケールは、今後どんな人に利用してもらえる施設にしたい？

**齊藤** ケールは施設外就労や農業などの外作業、お土産品の製造など仕事を選択できるので、いろんな分野の仕事をしたい人に向いていると思います。

**横田** 仕事を長年続けているメンバーさんが作業をしてくれるので、製造作業では集中してきっちり仕事をする環境が整っていますね。個人的には**農作業の好きなメンバーを大募集です(笑)**。あと、エゴマ油の商品化に興味のある人も(笑)

**森元** 生活リズムを整えながら難易度の高い作業をして、製造業への一般就労の肩慣らしをしたい、一歩ずつ経験を積んでから一般就労したい、そんな人にもケールをお勧めしたいですね。「ケールでの経験が役にたった」と言ってもらえるように頑張りたいです。

**清水** 農福連携って言われているなかで、4月からケールでもエゴマの栽培など夢のある新しいことにチャレンジを始めている。試行錯誤しながら利益を出して、将来的にはメンバーさんに工賃向上のかたちで還元していきたい。私たちスタッフは、仕事や生活などさまざまなチャレンジをしているメンバーさんたちと作業を通じて関わり、より良いサポートを目指して頑張っていきたいと思います！

# 山梨県立あゆみの家

## 染物ワークショップ

山梨アールブリュットネットワークセンターYANの皆様に来て頂き、染物ワークショップを行いました。初めて染物に挑戦するメンバーがほとんどで、皆、仕上がりがどんな風になるのかワクワクしながら、一日かけてオリジナルの型を作り、好きな色に染めました。どれも個性あふれる素敵なキャンパスバッグに出来上がりました。世界に一つだけしかない自分のバッグでの買い物は最高です。



## 流しそうめん&OB 交流会

流しそうめんは、例年は野外での実施ですが、台風のためスタッフが考えた結果、室内流しそうめんを初めて実施しました。台風が来るより先に床が浸水するのではと心配しましたが、見事、大成功でした。その場で揚げた唐揚げ、かき揚げも大好評でした。ゲーム大会も行われました。箱に入れた中身を当てるクイズでは、生のカエルまで登場し大変盛り上がりました。

あゆみの家を卒業された方をお招きしての交流会では、退所後の暮らしや、あゆみの家で役立ったこと等のお話を伺いました。メンバーは興味深く話に聞き入り、積極的に質問していました。

とても温かい素敵な一日となりました。



**カエル** です!!

# 相談支援センターカマラド

## 地域移行支援に取り組んで

「やっぱり退院してもう一度1人暮らしをしたい！」

「退院してまた調子が悪くなったり、不安になった時にどうしたらよいのだろう？」

「親や兄弟が反対をしているから、私は退院しない方が良くってこと？」

「マクドナルドのハンバーガーをもう2年半食べていない。食べに行きたいなあ」

これは、今まで私たちが応援させていただき、その後退院された利用者の方々の生の声です。

「当たり前」ってなんだろう？ 当たり前の解釈や価値観は人によって違います。でも、やはり病院や施設での生活が長くなればなるほど、その感覚は遠のいていきます。地域移行支援に関わって4年間で相談支援センターカマラドは15人の方の地域移行を支援させていただきました。退院した方は今それぞれの暮らしを「自分の住みたい、生活したい場所」でしています。

地域移行支援に取り組む中で大きなポイントだと思うことが3つあります。

- ①本人のしたい生活や生活する場所を本人と共に考えて取り組む
- ②周りの環境（家族や医療機関等）への働きかけを行う
- ③再入院をなるべくしないよう生活のサポート体制を構築する

以上のことを大事にしながら、今後も地域移行支援に取り組み、一人でも多くの方が自分の住みたいところで生活ができるようサポートしていきたいと思っています。

## グループホーム

### グループホームメンバーミーティング

グループホームでは、各拠点ごと毎月1回メンバーミーティングが行なわれています。季節のテーマでの一言チェックインから始まり、その月の予定の確認や、気になった点などスタッフとメンバーさんで意見を出し、話し合える機会にしています。

今年は9月に夕食会レクレーションを取り入れることになり、それに向けて食べたいもの、行きたい場所など、意見が活発に出ていました。日中活動先でのレクレーションがあり、更に生活の場でのレクレーションということで、メンバーさんの生活の充実を図っていきます。

今後も充実した生活ができるよう、このような機会を取り入れていきます。



カマラドミーティングの様子

## ラヴィのBBQ

夏と言えばバーベキュー。7月ラヴィでは、近所の方数名とボランティアの沢登さんをお呼びして、【バーベキュー&音楽会】を行いました。

今年は暑さ対策として外での飲食は避け、室内で焼きたてのお肉や海鮮焼きそばを食べました。音楽会では、沢登さんのアコーディオン演奏に合わせ、メンバーも演奏に参加したり近所の方々とも歌ったり、とても楽しい時間を過ごすことができました。その間に職員は暑い中、炭火でお肉をせっせと焼き、その甲斐あってか、みんな「美味しい。」と笑顔でお腹いっぱい食べてくれました。



## 楽しんだ夏祭り♪

8月 ラヴィの夏祭りが行われました。この日は、童心に返り思う存分お祭り気分を味わい楽しもう！！と言うことで皆で目いっぱい楽しみました。引き換え券を手にし、まずは遊びのコーナーから。金魚すくい・ヨーヨー釣り・駄菓子落としに挑戦したら、次はみんなの大好きな食べ物コーナーへ。色々あってどれから食べようか迷っている方も。たこ焼き・チョコバナナ・かき氷・焼き鳥などなど。屋台風焼きそばは大人気でした。くじ引きの景品選びはみんな必死で、懐かしい風船おもちゃの毛笛の音鳴らしに悪戦苦闘する姿も。

最後に全員で打ち上げ花火の映像を観て、夏の思い出作りをしました。



# 研修報告

## 職員研修

### ～自己理解・他者理解講座『MBTIメソッドの活用』～

今年度から毎月各事業所で、『MBTIメソッド』を活用した職員研修を行っています。MBTIは、25の言語に翻訳され、45か国以上で利用され、アメリカでは年間300万人以上の人々が利用し、特性検査のスタンダードになっています。

蒼溪会でこの研修を導入したきっかけは、沖縄県のアソシアの神谷代表に講師をしていただいていたからです。

「心の利き手を体験することで、「個」の違いがこんなにも大きなものだと気づくことができた」「これまでの自分のすべてに納得ができて、自分に優しくなれた」「他者にラベリングする必要はないことが分かった」などの感想がでて、本当に目からウロコの体験と学びを多くの職員が得ました。

蒼溪会職員、個を磨きながら、質の高い支援ができるように学びを深めています。関心のある法人や教育関係者の方は、ぜひお問合せください。



### 「令和元年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者指導者養成研修」

6月12日～14日で、埼玉県国立リハビリテーション病院で「令和元年度サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者指導者養成研修」がありました。

今年度からは、山梨県研修企画チームとして各障害者団体の代表者が定期的に話し合いをしながら、相談支援専門員やサービス管理責任者等の研修を企画しています。

今回、精神障がい者地域生活支援ネットワークの代表として蒼溪会からあゆみの家渡邊充恵が国研修に参加してきました。また、有野理事長は国の研修企画チームに入っており講師として登壇し、講義をしておりました。

研修修了後は、さらに話し合いを密に行い「サービス管理責任者・児童発達支援管理者更新研修」（年3回）、「サービス管理責任者・児童発達支援管理者初任者研修」等を実施しています。

サービス管理責任者の研修体系が変わった今年度。

蒼溪会も自事業所のサービス管理責任者の更なる資質向上だけでなく、山梨県内の事業所と共に、県内のサービス管理責任者の資質向上に寄与していきたいと思っております。





# 共生～ミニ福祉情報～

## 【共生を目指して】

障害がある人もない人も共に生きる当たり前の社会を目指して、毎回精神保健福祉に関するトピックを取り上げていきたいと思えます。

WRAP（らっぷ）とは、「Wellness Recovery Action Plan」の頭文字です。日本では、「元気回復行動プラン」と呼ばれています。自分が元気でいるために、あるいは、調子がすぐれない時に元気を取り戻すために、自分にあった対処方法（行動）をデザインするプログラムです。WRAPを日々の暮らしに取り入れることは、健康管理や自分らしく豊かな生活を送ることに役立つと言われています。

WRAPでは、自分にあった対処方法を「元気に役立つ工具箱」と呼びます。例えば、好きな音楽を聴くこと、人に話を聴いてもらうこと、誰かの役に立つ活動をするなどです。心と身体の状態に応じて、自分の「元気に役立つ工具箱」を使い分けていきます。WRAPは、自らも精神疾患を抱えているメアリー・エレン・コーブランドさんらによって開発され、病気や障害といった困難を経験している人々の生活に良い変化をもたらしてきました。

自分のWRAPをデザインする場合はWRAPクラスと呼ばれ、養成研修を修了したWRAPファシリテーターが運営します。蒼溪会では今年度、地域貢献事業の一環として、WRAPファシリテーター養成研修を開催しました。全国各地から受講者が集まり、5日間の学びの時間を経て、17名のWRAPファシリテーターが誕生しました。蒼溪会でも理事長を含めた4名のスタッフが、養成研修を修了することができました。養成研修は、WRAPに関する知識やWRAPクラスの運営方法の習得にとどまらず、自分の持つ力や可能性に気づき、自分らしい生き方とは何かを仲間と共に探求した時間でもありました。

あゆみの家では、自立訓練（生活訓練）のプログラムの一つとして、WRAPクラスを運営しています。また、今年度は新たな取り組みとして、「蒼溪会WRAP」を始めました。蒼溪会WRAPは、当事者、支援者といった垣根を越えて、「WRAPに関心があり、自分らしく豊かな生活を送りたい」と願っている参加者が集まる場です。お互いの知恵や経験を分かち合い、学び合いながら自分のWRAPをデザインする時間は、まさに「障がいのあるなしに関わらず、共に生き、支え合うプロセス」なのです。

私たちは誰しも生活を送る中で、様々な困難に直面します。それは、心身の健康や日々の暮らしに影響を与えるでしょう。そのような時に、自分のWRAPを生活に取り入れてみませんか？WRAPをデザインする、実際に活用するプロセスには、希望や可能性を感じられることや、自分のことは自分で決めるといった、自分らしい生き方や充実した暮らしに大切な要素が詰まっています。

参加者と共に、WRAPの魅力や自分の可能性に出会える場。みなさまの蒼溪会WRAPへの参加をお待ちしております。



蒼溪会WRAPの様子

## ノリさんのつぶやき



9月21日（土）に蒼溪会フォーラムを開催し、作家の喜多川泰先生をお招きしました。

喜多川先生は、横浜の塾の経営もされていました。以前講演会で『「英数国理社」だけでなく、子供たちに「人生」という科目を教えている』とお話されていたのを聞いて、私はシビレました。勉強という道具を使って、子供たちの人間的成長に着目してお話する姿は、本当に聞き惚れたのを覚えています。

そんな私の好きな喜多川先生のお話を、私がかかわる全ての人たちに聞いてもらいたいと願い、今回蒼溪会フォーラム開催できたことは痛く幸せに感じています。

理事長 有野哲章

### 8月末現在 登録人数

就労支援事業所	定員	人数
ケール		
就労継続支援B型	20	28
就労支援センターサヴァ		
就労継続支援B型	20	28

グループホーム	定員	人数
グループホーム(5ヶ所)	36	34
サテライト	7	3

ライフサポート ラヴィ	定員	人数
生活介護・通所介護	20	29

自立訓練	定員	人数
山梨県立あゆみの家		
宿泊	20	20
通所	22	22
訪問	-	3
短期	2	4

相談支援センターカマラド	件数
計画相談	240
地域移行	3
地域定着	11
自立生活援助	9

### 担当

有野哲章、渡邊充恵、斉藤真由美、渡辺かおる、森元尚紀、大木和美、中村由佳里、深澤亜衣

### 問合せ

社会福祉法人 蒼溪会 相談支援センターカマラド  
住所：南アルプス市有野3243-1  
電話：055-269-5671  
Eメールアドレス：kamarado@nus.ne.jp  
担当：中村